

インプラント 人工歯根

山口県在住の弁護士、中谷正行さん（66歳）は、仮歯をきれいにしようと、かかりつけの歯科医を訪ねた。

「短期の治療で終わらせたい」との思いから、治療が長期間にわたるインプラント（人工歯根）は避け、部分入れ歯、総入れ歯を検討。丈夫だった上前歯4本を切って総入れ歯に備えた。

しかし、総入れ歯の口の中の違和感や、外れたときの心配がぬぐえずに、結局、長期治療の覚悟を決めて、インプラント治療に臨むことにした。

友人から「インプラント治療なら九州管内で一番」とすすめられた九州歯科大学病院口腔インプラ

ント科教授の細川隆司歯科医師を訪ねた中谷さんは、「診査の結果によっては、4本のインプラントで上の歯すべてを支えられる方法が使えます」と言われて驚いた。

強い力で噛めて 見た目も若返る

「オール・オン・フォー（All on 4）」と呼ばれるその方法は、手術も短時間で済み、その日から食事までできると聞いて、昨年夏、オール・オン・フォーのインプラント手術を受けた。その後、下の歯もインプラント治療をした。

「口の中の違和感もないし、見た目もきれいだ。インプラントにしてよかった」（中谷さん）

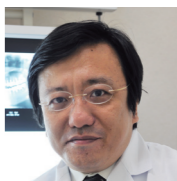
さて、そもそもインプラント治療とはどのようなものなのか。

歯が抜けてなくなった場合の治療法としては、現在、主として3つの方法がある。

一つは「ブリッジ」。抜けた歯の両隣の歯を削って支柱にし、橋渡しするように人工の歯を入れる。保険適用で費用が安く機能回復が

図れる治療法だが「健康な歯を削る必要がある」「支えている歯に負担がかかる」「残存歯が少ないとむずかしい」などの欠点がある。

二つ目は「取り外しのできる入れ歯（義歯）」を入れる方法。「歯を傷めない」「さまざまな欠損状態に適応可能」「費用が安い」などの利点はあるが、「強い力で噛



九州歯科大学病院
口腔インプラント科教授
ほそかわりゅうじ
細川隆司 歯科医師
北九州市小倉北区真鶴 2-6-1
☎ 093-582-1131



東京医科歯科大学病院
インプラント・口腔再生医学教授
かすが いしやうへい
春日井昇平 歯科医師
東京都文京区湯島 1-5-45
☎ 03-3813-6111

めない」「口の中に違和感がある」「見た目が不自然」などの欠点もある。

そこで三つ目の方法として、いま注目を集めているのが、インプラント治療だ。インプラント（implant）は、「からだに埋め込むもの」の意味。人工関節などもインプラントの一種だが、歯科治

療の場合は、あごの骨に人工の歯根を埋め込み、それを土台にしてその上に人工の歯を固定する方法を指す。

実はインプラントの歴史は古い。3世紀ごろのフランスでは鉄を、7世紀のホンジュラスでは貝殻を、抜けた歯の代わりに埋め込んでいたことが知られている。その後、世界中でいろいろな素材が試されてきたが、うまくいかなかった。

安定したインプラント治療が可能になったのは、比較的最近のこと。スウェーデンのプロローネマル

ク医師が、「チタン」が骨と結合しやすい現象に注目し、その後チタン製インプラントの成功率の高さが臨床的に実証された。強い力で噛めて、入れ歯のような出し入れの煩わしさもなく、見た目も天然歯と変わらないインプラントは、急速に普及すると同時に、治療方法もどんどん進化してきた。

「80年代は、インプラントを埋め込むのに耐えうるあごの骨が、量的にも質的にも十分にあることがこの治療の条件でした。しかし90年代になると、骨移植などの技術

の発達によって、骨が不十分な患者さんにもインプラント治療が可能になったのです」（細川歯科医師）

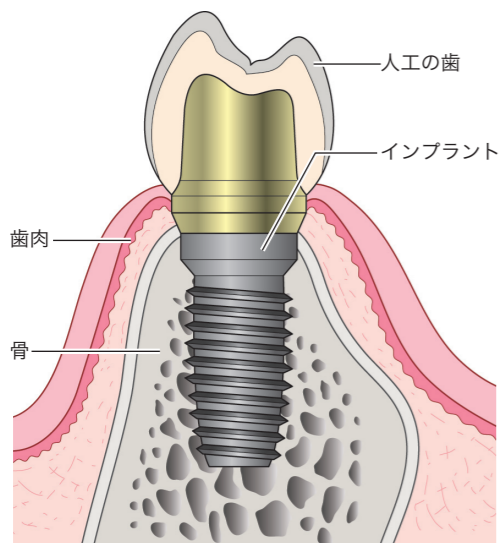
の普及によって、前述の「オール・オン・フォー」も安全で患者の負担が少ない治療法になってきた。また、インプラント自体も、形状や表面コーティングなどの改良が進み、インプラント手術と同時に歯が入る「即時インプラント」も可能になった。

骨の再生技術を使った最先端の研究

目覚ましい技術の進歩は、半永久的に持つインプラントを「第二の永久歯」にした。しかし、口の中の状態は年齢とともに変化しますが、インプラントの歯は挿入時のまま。細川歯科医師は注意を喚起する。

「丈夫で長持ちすることが、インプラントの問題点でもあるのです。本当は、口の中の変化に合わせてインプラントの本数や配置も修正していくのが理想ですが、いったん入れたインプラントは長持ちするため、そう簡単にやり直すことはできません。また、インプラ

■インプラント治療の一例



あごの骨にチタン製の人工歯根を埋め込み、その上に人工歯を固定する

日進月歩で進むインプラントの技術力 当日から「食べられる」即時治療も可能に

インプラントは非常に強い力で噛めるので、噛み合わせる歯を傷めてしまうことさえあります。このようなインプラント治療の特性を十分に理解した上で、適切な治療計画を立てることが必要です」

全国の大学病院のなかでもっともインプラント治療の数が多く、東京医科歯科大学病院。同院のインプラント外来科長として自らも年間200本以上のインプラント治療にあたっている春日井昇平歯科医師は、同時に、骨の再生という最先端技術の研究にも取り組んでいる。

「インプラントは現時点ではベストの治療法といえますが、パーフェクトではありません。あくまで人工物なのでからだの変化に適応できないこと、骨とはよく付くが歯茎との付きが不十分のため、

しっかりと手入れをしないと、細菌感染を起こすことがあります。次世代インプラントは、人工物であるインプラントの周りに天然歯と同様の組織を作って、生体とより調和が可能なインプラントだと思います」（春日井歯科医師）

現在、遺伝子を使ってインプラントの周りに骨を作る方法や、細胞や薬物を用いて骨を再生させる方法、さらに歯の再生の研究を進めている。

「動物実験では成果が出ていますが、臨床に用いるには、治療効果に加え、安全性、簡便性、適正な価格というハードルをクリアしなければなりません。歯の再生医療の実現には、10年、いや20年の期間が必要でしょう。当面はインプラントと再生医療の融合的な治療になると思います」（同）

現時点での一番の問題は治療費が高いこと。保険対象外のため、数十万から数百万円の治療費がかかる。インプラント治療の保険適用をめぐるっては、専門医の間でも議論が続いている。保険適用が望ましいものの問題もあるという細川歯科医師はこう話す。

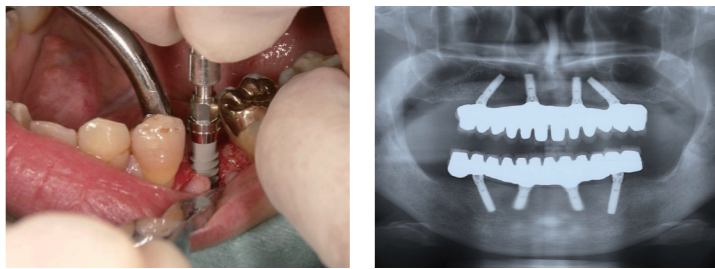
「インプラントはすでに高度先進医療として認可されているので、いずれ保険適用される可能性はある。しかし、医療費抑制の流れで、インプラントが不適切に低い保険

点数で導入されれば医療現場の大混乱を招き、結果的に患者さんの利益にならないこともある」

一方、春日井歯科医師は保険適用に消極的だ。

「歯科医療においては、予防と初期治療にこそ保険を集中的に適用すべき。そうすれば歯を失うリス

■インプラント挿入手術とレントゲン写真



丁寧にインプラントを埋め込んでいく（写真左）。右は4本のインプラントで歯全体を支える「オール・オン・フォー」

クが減る。歯を失うのは患者の自己責任という面もあり、また医療者に正当な報酬がなければいい医療は提供できない。日本の義歯の技術が世界的に劣っているのは、診療報酬を不適切に抑制した保険制度によるところが大きい」

ライター・定塚才恵子

名医の セカンドオピニオン



ブローネマルク・
オッセオインテグレーション・センター
院長
小宮山 彌太郎 歯科医師

ブローネマルク・
オッセオインテグレーション・センター
東京都千代田区一番町 27 開新堂ビル 4 F
☎ 03-5275-5766

「簡単」「早い」「安い」に注意 複数の意見を聞いて治療選択を

天然の歯のようにかめる喜びを取り戻せるはずのインプラント。トラブルになるケースも多い。どうすればいい治療を受けられるか、インプラント先進国であるスウェーデンで学び、1983年から日本に紹介してきたブローネマルク・オッセオインテグレーション・センター

院長の小宮山歯科医師に聞いた。インプラントは適切に治療されれば、長い年月にわたり患者さんに利益をもたらします。しかし、せっかくのインプラントが短期間で抜けてしまうことや、あごの神経まひなどの合併症も起こりえます。それによって、残念ながら患者さんともめてし

まうケースも多発しています。なぜ、トラブルが多いのでしょうか。それは、歯科治療の基本的な技術を十分習得していないのに、「簡単ですよ」「安価ですよ」と機材販売者に手を出さず歯科医師が多いからだと考えられます。

最近では、ホームページなどの広告で「即時」という言葉が、患者獲得の手段として利用される傾向にあります。一つは、「抜歯後即時埋入」のことで、適切な術式が採られるならば臨床的に好ましい結果を得られます。しかし、抜歯が必要となる病状の場合、骨面に形成される肉芽組織の除去が十分でないと、インプラントと骨組織にすぎ間ができ、骨組織をなくす原因にもなってしまう。

もう一つは「即時加重」という、インプラント埋入直後に人工の歯を装着する方法です。これも、適切な術式・部位を選ん

で実施すれば、良好な結果を得られます。しかし、インプラントと骨がしっかりと生着するには時間がかかります。どんな症例でも可能なわけではありません。また、組織への損傷を少なくするために、粘膜を切開せずに直接埋める「フラップレス・サージエリー」という方法も目につくようになりました。しかし、骨質などは実際に肉眼で見ないとわかりません。楽な手術に主眼を置くあまり、長年にわたり快適な結果を提供するという本来の目的がなおざりにされる可能性もあります。

「簡単」「早い」「腫れない」「出血がない」「安い」を売りにする宣伝には気をつけていただきたいと思います。医療に誘導があってはなりません。患者さんには、何方所もの歯科医師の意見を聞くことをおすすめします。多くの知識を得て、利点・欠点を理解してから治療選択をしてください。